

赤潮発生状況(令和5年 7 月)府県名: 大阪府

番号	府県別 番号	発生期間(日間)		灘名	府県名	発生水域	赤潮構成プランクトン	最高細胞数 (Cells/ml)	発生状況及び発達状況	水色	漁業 被害	最大面積 (km <sup>2</sup> )	発生水深
		発生日	～ 終息日 (日数)										
	OS- 7	6/5	～ 継続中	大阪湾	大阪府	淀川河口沖を除く神戸市から堺市にかけての沿岸および沖合域	<i>Skeletonema</i> spp.	71,100	6月5日から確認されている <i>Skeletonema</i> spp.の赤潮は、7月3日には左記の海域で確認された。7月10日以降は堺市沿岸域または淀川河口沖に分布を縮小したが、7月31日時点で終息していない。	不明	無	250	不明
	OS- 8	6/28	～ 7/3 (6)	大阪湾	大阪府	神戸市から貝塚市にかけての沿岸および沖合域	微小珪藻類	262,000	6月26日に確認された微小珪藻類の赤潮は、7月3日には左記の海域で確認された。この赤潮は7月10日には確認されなかった。	不明	無	400	不明
	OS- 9	7/24	～ 継続中	大阪湾	大阪府	西宮市沿岸域	微小珪藻類	68,000	7月24日、左記の海域で微小珪藻類の赤潮が確認された。この赤潮は7月31日には西宮市から堺市にかけての沿岸域に分布を拡大した。	不明	無	80	不明

注)

- 1 本様式は、その月の1日から末日にかけて発生した赤潮について記載する。
- 2 「府県別番号」は、発生時期の順によりその年を通して一連番号を記載する。
- 3 「発生期間」は、発生が確認された日から消滅日までを記載することとし、同一海域で出現、消失を繰り返すものについては、最初の発生から最後の消滅までを1単位として記載する。
- 4 「最高細胞数」は、当該赤潮の発生時からのプランクトン毎の最高細胞数を記入すること。
- 5 「発生状況及び発達状況」は、発生から消滅までの発生海域、規模の変化等について、わかる範囲で具体的に記載する。
- 6 「水色」は、水産庁が製作した「赤潮情報伝達事業 赤潮調査事業水色カード」等に基づく番号(1～108番)を用いて入力すること。確認できなかった場合等については、「不明」と入力する
- 7 「漁業被害」については、「有」の場合のみ漁業被害シートに所要の事項を記載する。
- 8 「最大面積」は、赤潮が最も発達したときの面積(推定でも可)を記載する。確認できなかった場合等については、「不明」と入力する
- 9 「発生水深」は、赤潮が最も発達したときの発生水深(推定でも可)を記載する。確認できなかった場合等については、「不明」と入力する